



「災害に強いまち」を目指す
 確かな備えと高い防災意識で

「命をつなぐ道」として期待される東九州自動車道と佐伯堅田IC周辺。隣接する総合運動公園と防災・避難広場は、防災拠点の機能を備える。



生き抜く力を次世代へ
 小学校での防災マップづくり



防災関係機関がブースを出展
 防災フェスタ



全市をあげて取り組む「地域避難訓練」



佐伯市消防本部



水防訓練



消防訓練

九州一の広大なやさしさ
 佐伯市 **Saiki Spirit**

防災

東九州自動車道佐伯IC～蒲江IC間が開通し、宮崎県など他地域との距離が一層縮まりました。移動が便利になったことによる地域間の交流促進や、産業、経済の活性化はもちろん、緊急時の救命救急活動や救援活動を支える道としても大きな存在となることが期待されています。

山間部と海岸部の複雑な地形や多くの河川を有する佐伯市は、台風や土砂災害、津波といった自然災害を意識した備えにも努めています。防災情報システムや防災メールの運用のほか、避難路・避難地の整備や自主防災組織の結成、防災士の育成など、地域住民と一体となり意識を高めています。

平成22年には消防本部を鶴岡西町のコスモタウン内に建設。強い耐震構造とともに、あらゆる消防業務に迅速かつ確に対応できる設備を備えています。また防災の拠点となる市役所の新庁舎は、県内の庁舎では初となる免震構造を採用し、浸水に備えて重要な設備を高層階に配置しています。



昭和60年から子どもたちの「夜回り活動」を行い、平成26年、総務省消防庁の「防災まちづくり大賞」で最高賞の総務大臣賞を受賞したムササビ少年消防クラブ

宮野浦
むらの覚悟委員会

水産加工業の施設が集中している米水津・宮野浦地区で地域防災力を高めようと、定期的な防災委員会や独自の避難訓練を開催。子どもたちの防災に対する意識を養うため、津波標語の募集、地震や津波に関するアニメ上映、小学生の避難所宿泊体験など多様な活動を行っています。このような活動が高く評価され、平成27年には佐伯市の団体として2年連続となる「防災まちづくり大賞」総務大臣賞を受賞しました。まずは防災へ向けての行動を起こすことが、いざという時に地域の人の命を守り、津波や地震への防災意識の向上につながります。大分県の防災対策のモデルとして、ほかの地域への波及効果も期待しています。

第19回 防災まちづくり大賞 表彰式